

平成 29 年度教育事業 幼児期からの運動・体力向上指導者研修会
兼 国立三瓶青少年交流の家幼児期の運動プログラム普及事業
～遊びがもつ魅力を引き出す「場」と「きっかけ」づくり～

1. 趣 旨
- ・未就学児に関わる指導者に対し、「遊んで身に付く 36 の基本的な動き」を取り入れたプログラムを提供する。それにより、「36 の基本的な動き」についての理解を深め、島根県内の幼稚園、保育園等に広く普及する。
 - ・国立三瓶青少年交流の家の「つどいの広場」周辺の林間や芝生を利用し、幼児が自然の中で自由に遊んでいる活動の視察・体験を通して、幼児が遊びながら自然に「36 の基本的な動き」が身に付く「場」と「きっかけ」づくりについて考える。
 - ・未就学児に関わる指導者と共に、自然の中で自由に繰り返し遊べ、季節に応じたプログラムの開発を行う。

2. 事業の概要

○研修会編

- (1) 期日・場所 平成 29 年 11 月 8 日 (水) 国立三瓶青少年交流の家
 (2) 共 催 島根県教育委員会 島根県立少年自然の家 島根県立青少年の家
 国立三瓶青少年交流の家
 (3) 協 力 出雲市立大社幼稚園 58 名 (幼児 49 名、引率者 9 名)
 (4) 参加者 35 名 (募集 30 名)
 (5) 講 師 国立能登青少年交流の家 福岡 公平 氏
 (6) 日程及び内容

11 月 8 日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:00	11:50	13:00	14:30	15:00
	受付	開 講 式	視 察 の 説 明	活 動 視 察	昼 食 ・ 休 憩	講 義	質 疑 ・ 応 答	閉 講 式

○実践編

- (1) 期日・場所 平成 30 年 2 月 2 日 (金) 国立三瓶青少年交流の家
 (2) 協 力 社会福祉法人神門福祉会 神門保育園、神門第Ⅱ保育園参加者
 35 名 (幼児 29 名、引率者 6 名)
 (3) 講 師 狩野 祥文 氏
 (4) 日程及び内容

2 月 2 日 (金)	9:30	11:30	12:00	13:00	14:30	15:00
	活 動 開 始	かまくら作り 5 歳児を 3 班 (1 班 10 名程度) に分けて実施。	活 動 終 了	片 づ け	昼 食 ・ 休 憩	事 後 検 討 会 (園児は 雪遊び)

3 事業の内容

(1) 事業の特色

○研修会編

島根県内への幼稚園、保育園等に幼児期の運動プログラムを広く普及するため、島根県教育庁保健体育課、島根県内の青少年教育施設 2 施設と連携して実施している事業である。午前は自然の中で自由に活動できる場を設け、連携幼稚園の園児が実際に活動する様子を教員、指導者が視察できるようにし、午後は午前の活動を踏まえながらの講義、質疑応答の時間を設けることで、36 の基本的な動きについての学びがより深められるようにした。

○実践編

冬場の豊富な雪を利用した、発達段階に応じた遊びを中心としたプログラムの提案を行った。保育園、幼稚園への事前の聞き取りでは、「たくさんの雪を使って大きなものを制作したい。」「毎年作ってみるが、ノウハウ、道具がなく、大きいものは難しい。」といった話が聞かれた。そこで、園児や先生方の希望が多かった「かまくら」作りを題材とし、実施と検討を行った。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

○研修会編

今回は講師に「遊んで身に付く36の基本的な動き」vol.1の編纂に携わった福岡公平氏を招き、午前はプレリーダーとして運動遊びのプログラムを実施し、午後は「幼児期における運動遊びの重要性について」の講義を実施したのち、質疑応答の時間を設け、幼児期教育に関わる指導者が互いに学びが深められるよう工夫した。

○実践編

検討できる題材として、3通りの「かまくら」を製作した。事前の聞き取りから、5歳児は、「協力して大きな活動をしたい頃」、「自分たちで役割分担ができる頃」との情報を得たため、雪の運搬や積み上げ、組み立てなど、役割分担ができるように設定し、道具も選択できるように準備することで、36の基本的な動きを意識してプログラムをデザインした。

4 成果と課題

〈成果〉

○研修会編

島根県教育庁保健体育課、島根県内の青少年教育施設2施設と連携することによって、島根県内全域に広報を行うことができた。その結果、広範囲の地域から参加者を得ることができると共に、幼稚園、保育園の関係者だけでなく、公民館、体育協会、レクリエーション協会等、様々な組織、団体から参加を得ることができ、幼児期における運動遊びの重要性について県内に広く普及するためのスタートを切ることができた。

○実践編

事業後の園との協議では、「豊富な雪で大きな物を作る活動を全身を使って行うことができ、園児は大変喜んでいた。」「色々な役割があることで、自分たちで分担できたり、完成に向かって一緒に取り組めたり、意識の高まりがみられた。」といった感想が出された。当初、幼児には難しいと考えていた「バケツかまくら(バケツで作った雪のブロックを積み上げて作る)」だったが、作業分担が明確で、「持つ」、「運ぶ」、「引く」、「押す」といった体の動きが、取り入れやすいこともわかり、幼児の発達に応じた活動に適していることがわかった。

〈課題〉

○研修会編

今回は前日の雨のため、野外での活動ができなかった。プログラムを野外で実施する場合には、様々な状況を想定して安全に実施できるよう、安全面への十分な配慮が必要である。また、幼児期における運動遊びの重要性を継続して啓発していく取り組みが必要である。

○実践編

歩くスキー、そり遊びを中心に、毎年、継続して宿泊する園もあるが、プログラムや宿泊について、幼児を対象とした周知が行き届いていない面もある。幼児の遊び、体を動かす機会の大切さも含めて、多くの園に取組を広めていきたい。

○研修会編



○実践編 かまくら作り



(担当：事業推進室長 寺戸 真一)